

地方 通信



北海道管内道路施設全面擴充

道路の維持開發は戰時下陸運輸送力増強の重要施策として一層緊切度を加へつゝあり、北海道廳でも新年度を期してこれら道路施設の全面的擴充を圖り現下の緊要要請に即應すべく拓殖費並に地方費豫算による事業箇所を選定を急いでゐるが今回次の如く内定した。特に一段の窮屈を豫想される資材勞力難を克服して鑛山道路の開發、腐朽橋梁の應急架換その他の重要施策に豫算を重點的に集中し地方費においては橋梁架換百五十五箇所（豫算九十二萬圓）指定

地方通信

道路修繕十二箇所（豫算六萬四千七百圓）指定橋梁修繕九箇所（豫算二萬六千九百圓）更に拓殖費においては道路橋梁その他指定工事四十四箇所（豫算百八十萬圓）等大規模な事業計畫が含まれてゐる。

福島縣鮫川橋の起工式 舉行

福島縣石城郡鮫川の氾濫を防ぐ縣營の大改修工事は昨秋九月以來着々準備を進めてゐるが、いよゝ一月二十一日午前十時から鮫川橋畔で起工式を擧げた。總工費百五萬圓で本年度から三ヶ年繼續して十九年度に完成する事になつて居る。

長野縣々道橋梁の補強

長野縣下の縣道中現在の橋梁數は二千八百五十橋あり、その中鐵橋または鐵筋コンクリート橋として改築されたものは約九百橋で残りの一千九百五十橋は不永久的木橋中現在荷重制限を行つてゐるもの四百七十九橋あり、その中約八十橋は本年度中並に明年度中に架け換へまたは修繕を行ふべく經費を計上されあり逐次工事進行中であるが、その他の四百橋はなほ未だ修繕補強の方途が講ぜられてゐないので、目下縣道路課ではこれが對策を研究中であるが、この荷重制限のため折角豊富に産出されんとしつゝある木炭、木材、鑛産物等の搬出上に大支障を生じむなく現産地に放置されてゐるものも少くなく、關係者から縣に對して橋梁の補強工作速進方を陳情する向あり縣道路課でも黙過すべきでないとしてとり敢へず右四百橋中百餘橋の重要なものを選定して應急的な『突つかい棒』その他の

補強工作により荷重制限ヶ所の減少をはか
るべく方針を決定急速に腐朽橋梁の補強工
作にとりかゝるべく折角と準備を進めてゐ
る。

高知縣下足摺岬迂回線

着工か

待望久しい高知縣下足摺線伊佐、津呂、
窪川間の縣道敷設は昭和十二年支那事變勃
發により一時中止の運命に遭遇、改修を見
るに至らなかつたが、昨年來地元民の熱烈
な要望と幡多支廳の支援によりいよいよ來
る四月から着工を見ることになつた、總工
費は二十六萬圓で、半額は縣費支辨、殘額
は清水町の起債に待つはずで同町では可及
的速かに起債方法を講ずることになつた。

同線は現在清水町清水を起點に中濱、大
濱、松尾を経て足摺岬伊佐部落赤バエ地點
迄縣道が施設され、赤バエ地帯から舊上灘
村津呂に至る約二十六町は險阻な坂道のた
め、同町の産業發展の上に支障を來してゐ

たものである。

従つて今回同路線竣工の曉は足摺岬伊佐
部落を初め窪津、松尾、大濱、中濱地帯の
海産物輸送は陸路中村町を経て即日高知へ
達する見込みで同町の産業開發に寄與する
ところ多大なものがあり、町民は着工の日
を待ちあぐんでゐる。

足摺線伊佐、津呂間の縣道施設に關して
は地元民の熱心な要望もあり前任細木支廳
長時代からの懸案として殘されてゐたもの
である、縣費支辨は半額で残りは地元民の
寄附を以て竣工せしめる筈で縣とも打合せ
中であるが近く着工する。

高知縣下林道の竣工目

前に迫る

高知縣幡多郡大正村森林組合では日發補
償により工費四萬四千圓を投じ同村田野々
橋から樺原川の西岸に沿うて江師部落に至
る林道三千五百メートルを昨年九月着工、
組合長岡村五郎氏の督勵により續行中であ

るが、工事は九分通り進捗し近く竣工する
豫定である。同路線は豊富なる國有林の木
材、木炭を搬出する産業道路で勾配は極め
て緩慢であり、殊に江師並に蔭地部落等百
餘名の學童の通學を助けることは大きな喜
びとされてゐる、なほ林道開通と同時に右
路線の中間にある荒蕪地を開墾して水田五
町を改修するため岡村組合長の手で計畫さ
れてゐる。

